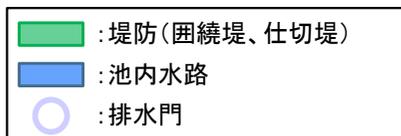


荒川第二調節池の今後の取り組みについて

- 令和8年出水期までに第二調節池下流部（赤の範囲）の^{いぎょうてい} 囲繞堤、^{しきりてい} 仕切堤、排水門、池内水路等を整備し既存の横堤を活用することで、段階的な効果の発現を目指します。
- これにより、約1,200万m³の洪水調節容量を確保することが可能となります。



【参考】

荒川第一調節池の洪水調節容量 約3,900万m³
荒川第二調節池の洪水調節容量 約3,800万m³

※予算の状況や関係者との調整により段階的な効果の発現時期は変わることがあります。